

(社) 日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会  
第12回 炉心・燃料分科会 (P2SC) 議事録

1. 日時 平成13年10月18日(水) 13:30~17:00
2. 場所 日本原子力学会 会議室
3. 出席者 (敬称略)  
三島 (主査)、古田 (副主査)、姉川 (幹事)、秋山、井上、木下、久保、小村、永田、林 (10名)  
(代理出席委員) 井口 (安濃田代理), 木村 (劔田代理), 大水 (藤井代理) (3名)  
(欠席委員) 大橋, 上塚, 橋本, 後藤, 重宗 (5名)  
(常時参加者) 西田, 原, 増原, 安尾 (4名)  
(発言希望者) 師岡, 鈴木 (2名)  
(事務局) 太田

4. 配布資料

- P2SC12-1 第11回 炉心・燃料分科会議事録 (案)
- P2SC12-2 BWRにおける過渡的な沸騰遷移時の燃料健全性評価基準ドラフト4  
《SC10-8-1》
- P2SC12-3 第7回発電炉専門部会でのコメント《SC10-8-2》
- P2SC12-4 標準案事前送付資料に対する委員コメント《SC10-11》
- P2SC12-5 第10回標準委員会でのコメント
- P2SC12-6 第7回発電炉専門部会及び第10回標準委員会コメントの対応案
- P2SC12-7 リウエット時の燃料健全性について (その2)
- P2SC12-8 標準委員会運営内規
- P2SC12-9 標準委員会専門部会運営通則

参考資料

- P2SC12-参考1 標準委員会等の開催予定と実績
- P2SC12-参考2 標準制定スケジュール
- P2SC12-参考3 収着分配係数の測定方法—浅地土壌等を対象としたバッチ法(案)
- P2SC12-参考4 標準の目的、位置付けの記載について
- P2SC12-参考5 JISによる附属書、解説の記載について

5. 議事

議事に先立ち、事務局より、委員18名中代理委員を含め13名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事録の確認

前回議事録について以下を訂正の上承認された (P2SC12-1)。

- 2頁, 3行 「藤委員の後任の」を削除。  
2頁、11行 早い事象→速い事象に訂正。

- 2) 事務局より、P2SC12-3、12-4、12-5により、発電炉専門部会及び標準委員会のコメントの紹介が行われ、三島主査、古田副主査より、同部会、同委員会でのコメントの補足説明がなされた。

3) 発電炉専門部会、標準委員会のコメント対応について

原氏よりP2SC12-6により、標記部会、委員会でのコメント対応案についての説明があり、以下のような審議が行われた。

- ・ポストBTの背景、目的の明確化については、“まえがき”に、BTに関する情報が集まり、ポストBT時の安全性について信頼できる知見が得られてきたという経緯、本基準を安全評価にも使用することを記載する。但し、あくまで情報を提供する立場であり、規制の枠組みについてはまでは記載しない。
- ・燃料の燃焼度範囲に関しては、9×9燃料の燃焼度までとし「適用範囲」に記述する。MOXも含めるものとするが、MOXに対して技術的に問題ないことの検討を行い、附属書に記載する。
  - ・再使用の回数に関しては、評価を追記する。
  - ・再使用の定義に関しては、「定義」に追記し明確にする。
- ・解析コード名の記述に関しては、實際上、相関式は解析コードと一体で検証されているが、ここでは、検証された解析コードは正しい熱水力状態の結果を出すように作成されていることを前提に、組合せについては限定しないという立場をとった。実際に行った具体例として、相関式とコードの名を示せば良い。また、解析コード名はバージョンを含め記述する。
- ・このようなモデルを組み込んだものというのが規定であり、コード名はあくまでもサンプルであり、規定ではなく参考として扱う。
- ・クロスチェックできる環境を与える必要があり、解析方法に対する条件とそれを満足する例を示す必要がある。

- ・附属書2の非保守側のデータに関しては、熱的に厳しい特殊なケースであるので、そのことについて注釈を付ける。
- ・本文適用範囲に関する1\$以下の運転上評価については、過渡事象では最大0.2\$程度であり、1\$以上とはなりえない。本文に明記しなくコメント対応の中で説明する。
- ・タイトルの評価基準の表記に関しては、本基準は評価に基づいて基準を設定しているので評価基準は適切と考える。その主旨を説明する。
- ・全体の体裁に関しては、事務局の提示する資料に従い、経緯、根拠、検証結果は解説に記載する。

4) リウエット時の燃料健全性について(その2)

小村委員よりP2SC12-7により、題記内容について説明し、標準の参考資料として追加することとなった。

5) “まえがき”, “本文”については、案ができた段階で、委員宛に送付することとした。

6. 次回開催予定

第13回分科会を11月26日(月)の午後13:30より行うこととした。

以上